

## 1 計画策定の背景・目的

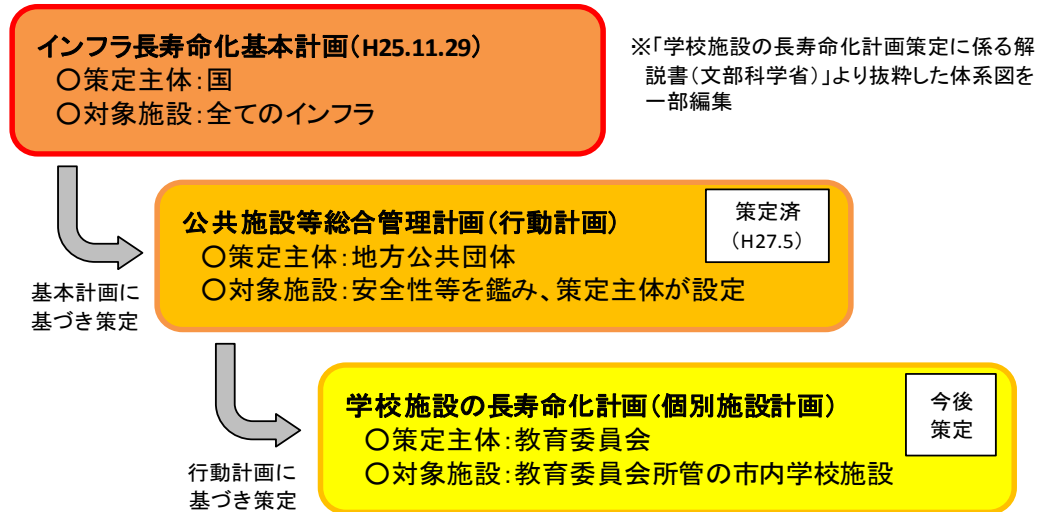
- 本市の学校施設は、昭和40年代から50年代にかけての児童生徒数の急増時に建設されたものが多数あり、その施設の約80%が建築後30年以上を経た現在、建物内外部や設備配管機器などの老朽化が進んでいる。
- 学校施設には、老朽化対策だけでなく、これからの時代に適した教育環境を整備していく必要が生じている。
- 学校施設の中長期的な維持管理等に係るトータルコストの削減を図るとともに、予算の平準化を行いながら、施設に求められる機能・性能を確保するため、その方向性や実施計画を定める必要がある。
- 少子高齢化が進展する中で、本市の児童生徒数も緩やかな減少傾向へ移行しており、学校環境の整備は、この傾向をふまえ、実施する必要がある。

### 参考

国が定めた「インフラ長寿命化基本計画」に基づき、各自治体には、インフラの維持管理・更新等に係る基本の方針（公共施設等総合管理計画）と、個別施設ごとの具体の対応方針（長寿命化計画）を定めることが求められている。

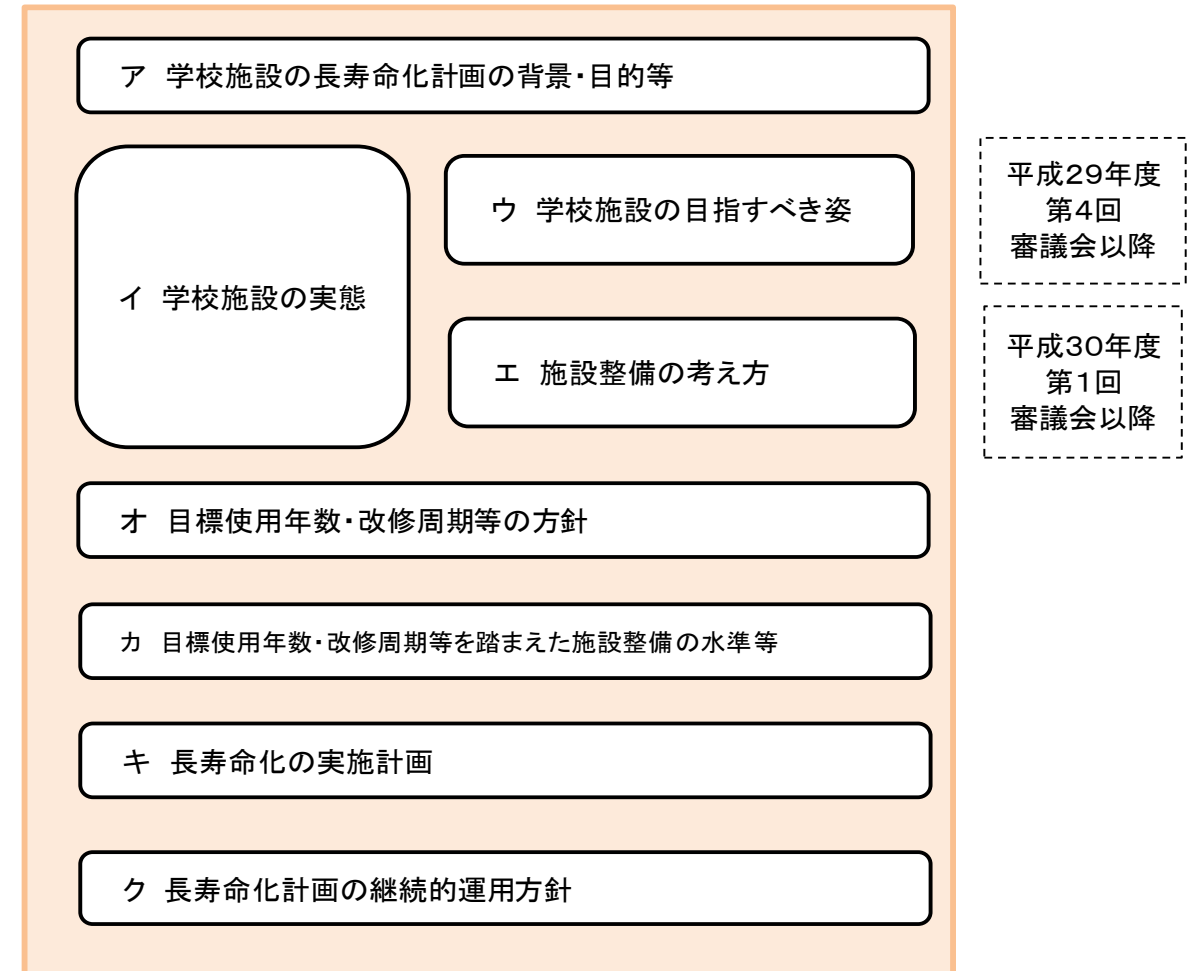
千葉市では、財政局において、全ての公共施設を対象とした「千葉市公共施設等総合管理計画」を平成27年に策定し、公共施設等の管理に関する基本的な考え方や取組みの方向性を定めた。

これを受け、教育委員会では、所管する市内学校施設を対象として、「学校施設の長寿命化計画」を策定する必要がある。



## 2 計画の構成(案)

「学校施設の長寿命化計画」の策定にあたっては、目標とする「学校施設の目指すべき姿」を設定したうえで、「施設整備の考え方」を整理するとともに、目標使用年数・改修周期等の方針や水準、長寿命化の実施計画等を検討していくこととする。



## 3 今後のスケジュール

		審議をお願いする主な内容(予定)
29年度	第4回(諮問)	学校施設の目指すべき姿(案)
30年度	第1回	・学校施設の目指すべき姿(修正案) ・施設整備の考え方(案)
	第2回	・学校施設の目指すべき姿 ・施設整備の考え方 } まとめ
	第3回	学校施設の長寿命化計画(案)
	第4回(答申)	・学校施設の目指すべき姿 ・施設整備の考え方 ・学校施設の長寿命化計画 } 答申